

【事例報告3】

効果的な広報活動の試み ― 広報ツールの改善を通して ―

三重大学附属図書館情報リテラシー担当 柴田 佳寿江

1 はじめに ―なぜ、図書館は広報するのか

大学図書館をめぐる環境は大きく変化している。資料やサービスの電子化（Web を利用して ILL 依頼や予約ができる）、利用形態の変化（電子化に伴い来館しなくても図書館サービスを受けられる）、インターネットの普及（図書館だけが学術情報を提供する専門機関ではなくなってきた）といった変化が進んでいる。

こうした状況の中で、図書館の存在感や社会的意義は相対的に低くなってきた。図書館は自らの存在をアピールするため、提供しているサービス、資料等を学生に利用してもらえるようアピールする必要が出てきた。

2 図書館における広報手段

オリエンテーション、投書箱、本の架、利用案内、PR紙（「学塔」）、ポスター、ビデオ、サイン計画等の図書館広報手段が存在するが、その中から三重大学附属図書館の取り組みとして、広報誌「学塔」と利用案内のリニューアル、図書館紹介ビデオ作成の取り組みについて報告する。

3 広報誌「学塔」のリニューアル

国立大学法人化して1年経過した頃、三重大学では学外者へ情報発信を行う大学広報誌「三重大 X（えっくす）」を創刊（2005.3）するなど、全学的な広報の見直しが進んでいった。

当時図書館広報紙「学塔」は1973年の創刊以来115号（2004年10月）まで年3-4回発行していた。内容は教員からの寄稿記事（3~4件）、新サービス紹介コーナー、著書寄贈一覧、図書館主要日誌というものだった。教員向け、学生向け、一般向けの内容が混在していたため、職員には「誰に」「何を」伝えたいのかがあいまいになっているという不満があった。誰を対象にするのか根本的な見直しを行い、2005年10月、リニューアル1号発行を目標にリニューアルすることとなった。

(1) 「学塔」リニューアルの概要

「学塔」は次の3つをコンセプトとしてリニューアルを目指した。

- ①Participational（参加型の）：ユーザの声・記事を盛り込みます。
- ②Interactive（双方向性がある）：ユーザの声に直接応えます。
- ③Attractive（魅力的な）：楽しく魅力ある誌面を目指します。

大学広報誌「三重大 X」が学外に向けた広報としたことから、図書館の広報のターゲットは学内ユーザ（＝学生向け）に特化することにした。発行頻度は春秋（4月・10月）の年2回、春号は新入生特集号とし、新入生全員に配布することにした。デザインはプロに発注し、3000部印刷、pdfをWebで公開することとした。

(2) リニューアル第1号

リニューアル第1号は、図書館という場にこだわり、特集は「行きたくなる図書館」とした。まず、図書館のミッションを掲載し、魅力ある図書館を目指すことを示した。また、過去の図書館の各種講習会、図書館ツアーのアンケートに寄せられた意見にQ&Aで回答した。このほかシリーズものとして、教員による「自著を語る」、各学部の必読書等を紹介する「これだけは読んでおきたい Reading List」、学生の声伝えるコーナーも設けた。図書館からのお知らせとしては、新

OPAC、新 Web サービス、新データベースの紹介を行った。

これらの内容の変更に加え、タイトルのロゴ、デザインも一新し、表紙に図書館玄関ホールに寄贈されたフクロウ（後にキャラクター化）の写真を掲載した。

リニューアルの結果、各学部の学生スペースに置いたものが減っており確実に読まれているという手ごたえがあった。大学執行部・職員・図書館関係者からも好評だったなど、リニューアル作戦は成功したといえる。しかし、予算の関係で 2 色刷りのページがあり、魅力に欠けたという反省点もあった。

(3) その後の取り組み

2 号以降も、新入生の出身県や留学生の出身国、三重県など地域についての特集や、学生が書いた記事を掲載する From Students ページの拡張など、学生に興味を持ってもらえる紙面づくりを続けている。

また、リニューアルを成功させるため、特集ページや Reading List 掲載図書のミニ展示、第 1 号の表紙に取り上げたフクロウの愛称募集とキャラクター化、広報担当者からのアドバイスを入れた紙面作り等を行っている。

10 月に発行する第 7 号では、特集：三重大図書館なんでもランキングとして、上半期の貸出回数が多い図書ベスト 5、ILL 貸出受付のベスト 5 などを紹介する予定である。

4 利用案内リニューアル

以前は、A3 カラー用紙に黒インク一色で印刷したものを二つ折りにした利用案内を学生に配布していた。図書館職員は、地味である、館内を持ち歩くには大きすぎる、館内 MAP がわかりにくいなどの不満を以前から持っており、2006 年度版から新しい利用案内を作成することにした。

リニューアルに当たって、まず何を載せるかを検討した。その結果、Web やカウンターでのサービス内容、館内地図（本の配置図）、分類表（NDC）、本の借り方・返し方、とりわけ延滞のペナルティに関する説明、開館日時・利用時間、ブックポストの利用、図書館利用時のマナー（飲食・携帯電話禁止）については、必須という結論になった。

様式は、全面カラー印刷で携帯しやすいよう B4 の三つ折とした。毎年作成するため、レイアウトは統一しておき、表紙写真や変更点など必要な場所のみ修正することにした。このリニューアルは、結果的に職員の省力化に繋がったと考えている。現在新入生を中心に学生に配布しており、毎年 3,000 部印刷している。

5 図書館紹介ビデオ

人文学部の教員と学生が授業で作成したビデオを図書館の広報に活用している。入館ゲートの通り方、図書の探し方（OPAC 検索の方法）、図書の貸出・返却方法、館内案内といった内容で、授業で作成したものではあるが、内容は充実している。ただし、毎年更新するものではないため、図書館の変化に対応できてないというのが課題である。

このビデオは三重大学学術機関リポジトリ研究教育成果コレクション MIUSE に登録(URL : <http://hdl.handle.net/10076/2350>)にも登録し公開しているほか、新入生に知ってもらう目的で、学塔 121 号でも紹介している。このほか夏のオープンライブラリー（毎年夏のオープン・キャンパス時に合わせて開催）で、玄関ホールで上映している。

6 今後の課題

次は図書館ホームページのリニューアルに着手したいと考えている。

図書館ホームページは2年前にトップページをリニューアルしたが、下層のリニューアルが進んでいないため、利用案内や対象別ポータル等細かいページのリニューアルが必要となっている。また、リンクを複数張ることをコンセプトとしているため、情報はヒットしやすいがURL変更時のメンテナンスが煩雑となっており、この改善にも課題となっている。

とりわけ期待しているのはCMS化である。三重大学のホームページのCMS化が進行中である。現在図書館ホームページの更新はHTMLで作成しており、情報リテラシー担当がメンテナンスを行っているが、CMS化すればそれぞれの担当者が直接情報を更新することができ、リアルタイムな情報発信が可能になる。迅速でスムーズな情報提供を可能にし、図書館の広報効果をより高めるためにも、ぜひ実現したい。

研修会の配付資料は、こちらのURLから入手できます。

<http://hdl.handle.net/10076/9240>

参考資料

杉田いづみ. 大学図書館を取り巻く環境変化と図書館の広報戦略—図書館サービスのブランド化を目指して—. 館灯. 2006,45,1-7

三重大学附属図書館報「学塔」on Web. URL<http://www.lib.mie-u.ac.jp/archive/gakuto/gakuto.html>
(参照 2008/8/1)